

自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	登別市立鷺別中学校
-----	-----------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年4月3日（月）	研修参加人数	22人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止等に関する基本的な考え方やいじめの早期発見・早期解決に向けた取組について共通理解を図る。 改訂された生徒指導提要の内容を踏まえ、児童生徒の自殺予防に向けた資料を基に、自殺予防に関する現状や対応について共通理解を図る。 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> いじめの積極的な認知の大切さや学校いじめ対策組織への報告等、組織的な対応の大切さについて理解を深めることができた。 自殺の危険の高まった生徒への早期発見・早期対応の具体について、理解を深めることができた。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度鷺別中学校いじめ防止基本方針 児童生徒の自殺予防の取組の充実に向けて 		

研修等の実施日	令和5年7月10日（月）	研修参加人数	22人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> 「SOSの出し方に関する教育」とはどのようなものなのか、なぜ必要なのかなどについて共通理解を図る。 子どものSOSに気付くための教育相談体制やSOSを受け止めるチェックリストの活用等について共通理解を図る。 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> 「TALK」の原則に基づき、子どもの心に寄り添うことや、自分一人で抱え込まずチームで対応することの大切さについて理解を深めることができた。 悩みを言い出しにくい子どものSOSに気付くため、多くの機会子どもたちを観察し、変化を見逃さないことの大切さについて理解を深めることができた。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> 「SOSの出し方に関する教育を始めましょう！」 「子どものSOSに気付くために～校内の教育相談体制を確認しましょう～」 「子どものSOSを受け止めるために」 		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況																																																	
A 援助希求的 態度の 育成	○ 実践の概要 中学生として必要なコミュニケーションスキルを身に付けることを目指し、道徳科の授業において、第1学年の生徒を対象にして、スクールカウンセラーが特別授業を行った。	 <p style="text-align: center;">【授業の様子1】</p>																																																
	○ 生徒の変容を促す工夫 「小学生と比べて中学生のいいところは？」というテーマで、実践的な活動を授業の中に取り入れることにより、コミュニケーションスキルの向上につなげる工夫を図った。																																																	
	○ 生徒の変容 6月と12月に実施した「ほっと」の結果において、本プログラムと関連性の高い「相談」及び「拒否」の数値について、他の項目より高い数値を維持した。																																																	
	○ 生徒の感想 今回の授業で、コミュニケーションスキルのポイントを学ぶことができ参考になったので、今後の学校生活で生かしていきたいと思った。																																																	
	「ほっと」各項目の状況(1学年)																																																	
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>6月</th> <th>12月</th> <th>項目</th> <th>6月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>礼儀</td> <td>3.6</td> <td>3.6</td> <td>遵守</td> <td>3.7</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>表明</td> <td>3.1</td> <td>3.0</td> <td>忠告</td> <td>3.1</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>参加</td> <td>3.5</td> <td>3.4</td> <td>自律</td> <td>3.4</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>配慮</td> <td>3.6</td> <td>3.5</td> <td>率先</td> <td>3.1</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>拒否</td> <td>3.8</td> <td>3.7</td> <td>学業</td> <td>3.6</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>緊張</td> <td>2.5</td> <td>2.5</td> <td>相談</td> <td>3.5</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>称賛</td> <td>3.7</td> <td>3.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	6月	12月	項目	6月	12月	礼儀	3.6	3.6	遵守	3.7	3.5	表明	3.1	3.0	忠告	3.1	2.9	参加	3.5	3.4	自律	3.4	3.4	配慮	3.6	3.5	率先	3.1	3.0	拒否	3.8	3.7	学業	3.6	3.5	緊張	2.5	2.5	相談	3.5	3.5	称賛	3.7	3.7			
項目	6月	12月	項目	6月	12月																																													
礼儀	3.6	3.6	遵守	3.7	3.5																																													
表明	3.1	3.0	忠告	3.1	2.9																																													
参加	3.5	3.4	自律	3.4	3.4																																													
配慮	3.6	3.5	率先	3.1	3.0																																													
拒否	3.8	3.7	学業	3.6	3.5																																													
緊張	2.5	2.5	相談	3.5	3.5																																													
称賛	3.7	3.7																																																

B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要

生徒一人一人が、自分の気分が落ち込んだ時に、できるだけ早く立ち直ることができるよう、「心の回復力」を身に付けることを目指し、道徳科の授業において第2学年の生徒を対象にスクールカウンセラーが特別授業を行った。
- 生徒の変容を促す工夫

「似顔絵コンプリメント」というワークシートを班活動の中で活用し、仲間からの応援メッセージを読むことにより、学級の心理的安全性を高める取組につなげる工夫を行った。
- 生徒の変容

「心と身体のチェックリスト」において、プログラム実施後、24項目中3項目以上「よくあてはまる」と回答した生徒の割合が全校で1.4%減少するなど、心と身体のバランスの状態がやや良好となる傾向が見られた。
- 生徒の感想

自分にとって悲しいことやつらいことでも、プラス思考で心を回復させることが大事だと感じたので、これからは今日学んだことを意識して毎日を過ごしていこうと思った。



【授業の様子2】

「心と身体のチェックリスト」(全学年)
 ※24項目に対して「よくあてはまる」を3つ以上回答した生徒数の割合

学年	夏休み前	夏休み後	増減
1学年	11.5%	10.4%	-1.1%
2学年	13.6%	12.5%	-1.1%
3学年	15.1%	12.8%	-2.3%
全体	13.3%	11.9%	-1.4%

※夏季休業後の結果を受けて、全校で22人の生徒に教育相談を実施。そのうち、9名の生徒が継続した観察が必要と判断。

C ストレス対処能力の育成

- 実践の概要

ストレスについて学び、そのストレスと上手に付き合っていく方法を身に付けることを目指し、道徳科の授業において、第3学年の生徒を対象にスクールカウンセラーが特別授業を行った。
- 生徒の変容を促す工夫

生徒一人一人がどのようにストレスに対処しているかを振り返ったあと、ストレス解消法に取り入れてほしいリラクゼーションを体験することにより、上手にストレスと付き合っていくためのスキルの向上につなげる工夫を図った。
- 生徒の変容

「ほっとプラス」において、プログラム実施後、「楽観思考」の数値が1.8ポイント増加するとともに、全項目において数値の増加が見られるなど、ストレス対処に係るスキルが全体的に身に付いている傾向が見られた。
- 生徒の感想

ストレス解消に向けた腹式呼吸を実際に体験して、心が落ち着いたり、気持ちがスッキリしたりする感じがあったので、これからも、疲れた時などに取り入れていこうと思った。



【授業の様子3】

「ほっとプラス」各項目の状況(3学年)

項目	1回目	2回目	増減
楽観思考	50.8	52.6	+1.8
将来期待	51.6	51.9	+0.3
他社理解	51.5	52.6	+1.1
脱破局化	53.1	54.2	+1.1
合計	52.1	53.6	+1.5